

京博、半世紀ぶり
東博、初の大展覧会！

特別展

源氏物語 王朝の かがやき

Special Exhibition
The Tale of Genji
Radiant Culture of the
Japanese Imperial Court



PRESS RELEASE
プレスリリース

〔京都会場〕 2026年10/6〔火〕-11/29〔日〕
京都国立博物館
KYOTO NATIONAL MUSEUM 平成知新館【東山七条】

〔東京会場〕 2027年1/19〔火〕-3/14〔日〕
東京国立博物館 平成館
TOKYO NATIONAL MUSEUM (Ueno Park)

NIKKEI 150th NHK
For a better world



【開催趣旨】

平安時代に紫式部によって著された『源氏物語』は、宮廷を舞台として貴公子・光源氏や個性豊かな女性たちの恋愛模様、人生模様を織りなした、日本文学史を代表する王朝物語です。後の時代に読み継がれる中で、文字の世界を超え、さまざまな美術作品を生み出しました。

本展は、『源氏物語』の場面やモチーフを表した美しい絵画、工芸品を一堂に集め、本文を綴った写本やその注釈類、さらに芸能や大衆文化への広がりも紹介することによって、わが国の文化に豊かながやきを与え続けたこの名作の魅力に迫ります。千年以上われわれを魅了し、いまや世界に広がる『源氏物語』。

京都・東京の両国立博物館が総力を挙げてその華やかな美と魅力をお届けする、かつてない大展覧会です。

源氏物語とは？

貴族文化が花開いた平安時代中期に、藤原道長の娘・彰子しやうしに仕えた女房・紫式部によって書かれた長編物語です。主人公の光源氏の苦悩多き一生が、女性たちとの恋愛や、宮廷社会の栄枯盛衰の中で、深く繊細な心理そして美意識とともに格調高く綴られます。全五十四帖のうち最後の十帖は、不義の子・薫を主人公にした光源氏死後の物語で、「宇治十帖」と呼ばれます。「世界最古の長編小説」ともいわれ、古典として読み継がれる名作です。

見どころ1 京博では約50年ぶり、東博では初の「源氏物語展」
王朝文化の象徴『源氏物語』にかかわる美術の名品が大集結！



車争図屏風(右隻) 土佐光茂筆 室町時代・永禄3年(1560) 京都・仁和寺蔵
正親町天皇の命によって制作されたと考えられる、「葵」帖の車争いを描いた大画面作品

京都 東京

戦国時代の新しい源氏絵

見どころ2

現存最古の源氏絵・
国宝「源氏物語絵巻」が
場面を替えて全期間出品！

宿命の子・薫を抱く光源氏



【国宝】源氏物語絵巻 柏木三 平安時代・12世紀 愛知・徳川美術館蔵 © 徳川美術館イメージアーカイブ/DNPpartcom 東京
薫を我が子として抱く源氏。苦悩する内面を不安定な構図が強調します

秘密の父子の関係をあばく



【国宝】源氏物語絵巻 鈴虫二 平安時代・12世紀 東京・五島美術館蔵
冷泉院、源氏、夕霧を鏡写しのように表現し、父子の関係を暗示します 京都

見どころ3

海外からの里帰り出品も！

54帖全場面揃う最古の源氏絵



源氏物語画帖 第51帖「浮舟」 土佐光信筆 室町時代・永正6年(1509)
アメリカ・ハーバード美術館／アーサー・M・サックラー美術館蔵
Bequest of the Hofer Collection of the Arts of Asia, 1985.352.51.A-B
宮廷絵所預・土佐光信による繊細、耽美、そして華麗な源氏絵が里帰り 京都 東京

見どころ4 近年注目の幻の源氏物語絵巻も多数出品！

史上最大規模の源氏絵



源氏物語絵巻(盛安本) 葵(部分) 江戸時代・17世紀 京都国立博物館蔵
実現すれば200巻?! 源氏物語の全文を書写し、多数の絵を付した壮大な源氏絵 京都 東京

目元の金彩は情念のしるし



【重要文化財】
能面 泥眼 「天下一河内」焼印
江戸時代・17世紀 東京国立博物館蔵 京都
光源氏への妄執により生霊となった六条御息所は、こうした能面で表現されました

見どころ5 京都展は〈能〉、東京展は〈浮世絵〉を中心とした展示も！

浮世絵美人画の人気画題

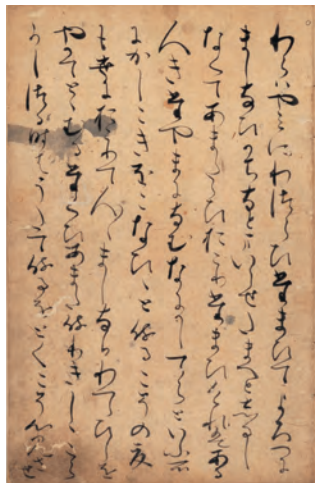


美人愛猫図 磯田湖龍斎筆
江戸時代・天明年間(1781~89)頃 東京国立博物館蔵
猫がじゃれつく美人画は、猫がめくった御簾から姿を見せる「若菜上」の女三宮を連想させます 東京

第一章 源氏物語を写す

かつて書物は、筆で書き写されることで世の中に広まり、そして後の時代に伝わっていきました。作者紫式部の自筆本が現存しない『源氏物語』も、そうした先人の営みによって、遙か平安の世から今日の私たちに届けられたのです。ただ、省略や改変、あるいは書き間違いや寄せ集めといったさまざまな要因で、物語本文には複数の系統が生じることとなりました。『源氏物語』研究で重要視されてきた、さまざまな個性を有する古写本をご紹介します。

2019年、奇跡の大発見



源氏物語 (定家本) 若紫

鎌倉時代・13世紀

鎌倉時代の歌人で文学研究者でもあった藤原定家が関与した、本文研究上の重要写本

京都 東京

第二章 源氏物語の作者 紫式部

『源氏物語』の作者は紫式部という女性です。幼少より文学に親しんだ素養を活かして執筆を始め、藤原道長の娘・彰子に仕えながら多くの読者を獲得したようです。その生涯はわからないことも多いですが、彼女の日記が読み継がれ多くの肖像画が描かれた歴史は、『源氏物語』作者としての名声がいつの時代も高かったことを示します。本章では、歴史の中の紫式部の実像と、後世の人々が回顧した紫式部のイメージを、文献や絵画から掘り起こします。

紫式部の時代にあこがれて



彼女こそ『源氏物語』の作者



紫式部像

土佐光起筆 江戸時代・17世紀 滋賀・石山寺蔵

宮廷絵師・土佐光起が描いた、もっとも有名な紫式部の肖像画

京都 東京

重要文化財 紫式部日記絵巻断簡

鎌倉時代・13世紀 東京国立博物館蔵

紫式部が彰子に仕えた時期の日記を、後の時代に絵巻にしたもの
親王誕生 50日の祝賀の場面

京都 東京

石から広がる源氏ワールド



盆石 銘 夢浮橋 伝後醍醐天皇所用
南北朝時代・14世紀 愛知・徳川美術館蔵
© 徳川美術館イメージアーカイブ/DNPartcom
源氏物語の最終帖「夢浮橋」の銘は後醍醐天皇による命名と伝わります

東京

トピック I

◆ 源氏世界に生きた人びと

『源氏物語』は単なる物語として読まれてきたものではありません。登場人物に自らを重ね、過去の歴史を物語内の出来事になぞらえ、さらには物語に記された華やかな行事が実際におこなわれることもありました。特に鎌倉時代後期から室町時代にかけては、『源氏物語』というフィクションが現実世界に働きかけるといった現象が起こっています。こうした「源氏世界」に生きた人びとと関わりの深い美術作品に着目します。



白描源氏物語歌合絵巻

室町時代・16世紀

いくつかの白描源氏絵は女性が描いた可能性も指摘されます

京都 東京

モノクロームで描かれた源氏絵

第三章 国宝 源氏物語絵巻

「国宝『源氏物語絵巻』は、『源氏物語』を描いた現存最古の作品であるだけでなく、数ある絵巻のなかの最高傑作のひとつとして名高い至宝です。練り上げられた構図、繊細に組み合わせられた色彩、精妙な線描が、縦20センチ余りの小画面に凝縮され、場面の情感を豊かに表現します。さらに詞書の仮名文字や料紙装飾の優雅さも見逃せません。平安貴族の美意識に満ちた『源氏物語』の世界をこれ以上なく堪能できる名画をご鑑賞ください。

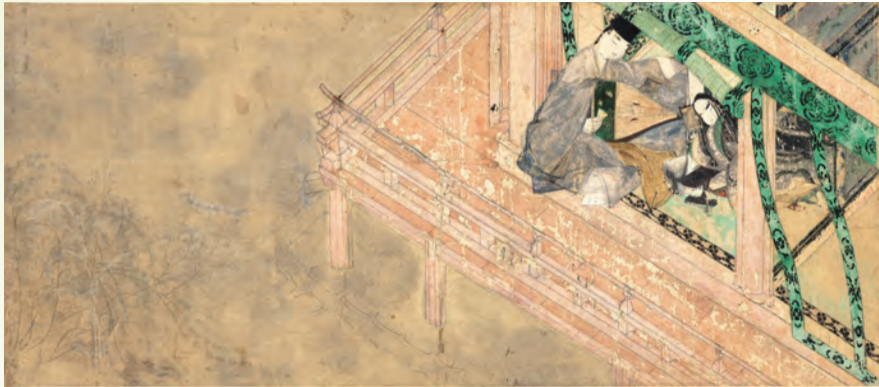
王朝美術、古典の至宝



〔国宝〕源氏物語絵巻 柏木一 平安時代・12世紀 愛知・徳川美術館蔵 © 徳川美術館イメージアーカイブ/DNPartcom 京都



〔国宝〕源氏物語絵巻 橋姫 平安時代・12世紀 愛知・徳川美術館蔵 © 徳川美術館イメージアーカイブ/DNPartcom 京都



〔国宝〕源氏物語絵巻 宿木三 平安時代・12世紀 愛知・徳川美術館蔵 © 徳川美術館イメージアーカイブ/DNPartcom 京都



〔国宝〕源氏物語絵巻 御法 平安時代・12世紀 東京・五島美術館蔵 東京



〔国宝〕源氏物語絵巻 東屋一 平安時代・12世紀 愛知・徳川美術館蔵 東京 © 徳川美術館イメージアーカイブ/DNPartcom



〔国宝〕源氏物語絵巻 竹河二 平安時代・12世紀 愛知・徳川美術館蔵 東京 © 徳川美術館イメージアーカイブ/DNPartcom

鎌倉時代以降、『源氏物語』の本文が整えられるとともに、さまざまな注釈書が作られます。こうした物語理解の深まりは、他の王朝物語とは異なる『源氏物語』の古典化、権威化を促しました。天皇を中心とする宮廷社会では、自らの文化的優越性を示すため『源氏物語』に関わる造形が盛んに生み出されました。室町時代頃までに作られた天皇による抜書や多くの源氏絵には、こうした文化的背景がありました。

『源氏物語』こそ、天皇権威の源泉



〔重要文化財〕源氏物語抜書(部分) 伏見天皇宸翰
鎌倉～南北朝時代・14世紀 千葉・国立歴史民俗博物館蔵

金銀泥絵を施した豪華な料紙下絵と流麗な書のコラボレーション 京都 東京

物語の全体を一望に収める



源氏物語図扇面貼交屏風(左隻) 室町時代・16世紀 広島・浄土寺蔵 60面もの源氏絵扇面を四季の順に貼り交ぜた、機知に富む作品 京都 東京

『源氏物語』は工芸品を裝飾する意匠としても表されました。その際には、人物の姿などを描かずに、特定の場面を暗示するモチーフを用いて象徴的に表す場合があります。これを留守文様といいます。また『源氏物語』が教養書として広まると、公家や武家が婚礼をおこなう際には『源氏物語』を携えて輿入れするようになり、その冊子を保管する書篋箱が制作され、婚礼調度に『源氏物語』の意匠を表すことがおこなわれました。

大名の婚礼調度の最高峰



〔国宝〕初音の調度のうち 胡蝶蒔絵扶箱
幸阿弥長重作 江戸時代・寛永16年(1639)
愛知・徳川美術館蔵 ©徳川美術館イメージアーカイブ/DNPartcom
徳川家光の長女・千代姫の婚姻に際し制作された、『源氏物語』「胡蝶」の情景を蒔絵で表した婚礼調度の扶箱 京都

絢爛豪華な源氏意匠の工芸品



〔国宝〕初音の調度のうち 初音蒔絵文台・硯箱
幸阿弥長重作 江戸時代・寛永16年(1639)
愛知・徳川美術館蔵 ©徳川美術館イメージアーカイブ/DNPartcom
『源氏物語』「初音」の情景を蒔絵で表した文台と硯箱 東京

トピックII

◆源氏物語と能

王朝文化の象徴である『源氏物語』と、幽玄の美意識に基づいた能とは、日本文化を代表する二つの大きな柱といえます。『源氏物語』の貴人は「幽花の種」として尊ばれ、両者の邂逅により生み出された「葵上」「野宮」「夕顔」「源氏供養」などの演目は、〈源氏能〉として今なお人気を博すとともに、中世以降の『源氏物語』享受の様相を伝えてくれています。

華麗な能装束



唐織紅茶段麻の葉藤色紙短冊模様
江戸時代・18世紀 東京国立博物館蔵
「気高き風姿」を演出する能装束には、幽玄の美意識と染織技術の粋が尽くされています 東京

第六章 源氏物語でいろどる

安土桃山時代以降、『源氏物語』を描いた源氏絵が大量に制作されます。色紙や絵巻、扇面はもちろん、大画面の屏風や襖絵に描かれる機会が増えたのも大きな変化です。そして、源氏絵は単なる物語絵として認識されていたのではなく、空間を華やかに飾り、婚礼や長寿を寿ぐおめでたい画題としても認識されていきます。数ある近世源氏絵の中でも、名品の誉れ高い作品を通じ、『源氏物語』の作品世界にひたってみましょう。

近世源氏絵唯一の国宝作品



[国宝] 源氏物語関屋澗標図屏風 俵屋宗達筆 江戸時代・寛永8年(1631) 東京・静嘉堂文庫美術館蔵 (公財) 静嘉堂/DNPartcom 京都 東京
伝統的な源氏絵を大胆にデフォルメした近世源氏絵の最高峰

中近世をつなぐ土佐派源氏絵の代表作



若菜上 東京
[重要文化財] 源氏物語画帖 土佐光吉・長次郎筆 安土桃山時代・17世紀 京都国立博物館蔵
後陽成天皇をはじめとする宮中が総力を結集した、近世源氏絵の金字塔

紫式部が江戸時代に生きていたら？



雪月花図(月図) 勝川春章筆 江戸時代・天明7~8年(1787~88) 頃 静岡・MOA美術館蔵
石山寺で筆を執る紫式部を、江戸の女性に置き換えた遊び心あふれる美人画 東京

江戸時代後期の大ベストセラー



修紫田舎源氏 柳亭種彦・歌川国貞(三代豊国)画 江戸時代・文政12~天保13年(1829~42) 東京国立博物館蔵 京都 東京
光源氏ならぬ、足利光氏の栄華を描いた大人気・長編パロディ小説

出版文化の発達とともに、『源氏物語』は江戸のひととに広く親しまれる物語となりました。登場人物や場面を当世風俗に置き換えて楽しむ浮世絵が数多く生まれ、知的な読み解きの遊びが広がります。江戸時代後期には、翻案小説『修紫田舎源氏』が大ベストセラーとなり、主人公・足利光氏を描く源氏絵が人気を博しました。この『源氏ブーム』は江戸後期の出版界を大きく動かし、その勢いは明治の浮世絵へも引き継がれていきます。

第七章 源氏物語であそぶ



江戸時代に多様に花開いた源氏絵は、近代に入ると新たな展開をみせます。画家たちは過去の源氏絵から学び、また独自の解釈を乗せて作品を生み出しました。松岡映丘筆「宇治の宮の姫君たち」は、国宝「源氏物語絵巻」など古典の学習を大画面へと昇華させた作品です。上村松園筆「焔」は、松園が「たった一枚の凄絶な絵」と語った異色作で、登場人物に画家の切実な感情を重ねました。近代源氏絵を代表する二作品を紹介し、本展の締めくくりとします。



生霊に込められたリアルな感情

ほのお 焔 上村松園筆 大正7年(1918) 東京国立博物館蔵
能「葵上」の六条御息所になぞらえ、嫉妬や怨念を描き出した新時代の源氏絵 **東京**

古典への深い敬愛

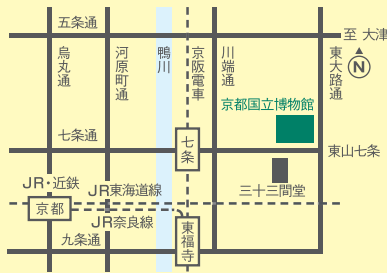


うじ みや ひめぎみ 宇治の宮の姫君たち(右隻) 松岡映丘筆 大正元年(1912) 兵庫・姫路市立美術館蔵 **京都**
国宝「源氏物語絵巻」の世界を鮮やかによみがえらせた、近代源氏絵の傑作

特別展「源氏物語 王朝のかがやき」
開催概要

【京都会場】会期：2026年10月6日(火)～11月29日(日)
会場：京都国立博物館 平成知新館
主催：京都国立博物館、日本経済新聞社、NHK 京都放送局、NHK エンタープライズ近畿

【東京会場】会期：2027年1月19日(火)～3月14日(日)
会場：東京国立博物館 平成館
主催：東京国立博物館、日本経済新聞社、NHK、NHK プロモーション



京都国立博物館

〒605-0931 京都府京都市東山区茶屋町 527
<https://www.kyohaku.go.jp/>



東京国立博物館

〒110-8712 東京都台東区上野公園 13-9
<https://www.tnm.jp/>

展覧会公式サイト：<https://genjiten.jp>

公式 SNS (X, Instagram)：@genji_kagayaki

【報道関係お問い合わせ(京都・東京会場共通)】

「源氏物語展」広報事務局(ユース・プランニングセンター内) 担当：平野・渡邊・池袋

Tel:03-6826-1215 Fax:03-6821-8869 E-mail:genji2026-2027@ypcpr.com

住所：〒150-8551 東京都渋谷区桜丘町 9-8 KN 渋谷3ビル4F

- 開館時間、休館日、入館方法、観覧料等の情報は、今後展覧会公式サイト等でお知らせします。
- 展示作品、会期、展示期間等については、今後諸事情により変更する場合があります。
- 京都会場のみ、東京会場のみで出品される作品があります。また、会期中一部作品の展示替、場面替があります。

- 表：(いずれも部分) 1. 国宝 源氏物語絵巻 柏木三 平安時代・12世紀 愛知・徳川美術館蔵 / 2. 国宝 初音の調度のうち 初音時給硯箱(蓋表) 幸阿弥長重作 江戸時代・寛永16年(1639) 愛知・徳川美術館蔵 / 3. 唐織 紅茶段麻の葉藤色紙短冊模様 江戸時代・18世紀 東京国立博物館蔵 / 4. 源氏物語図扇面貼 交展風 室町時代・16世紀 広島・浄土寺蔵 / 5. 薬式部像 土佐光起筆 江戸時代・17世紀 滋賀・石山寺蔵 / 6. 車争図屏風(右隻) 土佐光茂筆 室町時代・永禄3年(1560) 京都・仁和寺蔵
- 1, 2: © 徳川美術館イメージアーカイブ/DNPPartcom 1, 2, 3: [展示: 東京]、4, 5, 6: [展示: 京都、東京]

※本プレスリリース掲載画像を無断で転載する事を禁じます。